



# Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.40 2023. 10. 29 発行

## 教会ってなあに？

エフェソの信徒への手紙 1章 15—23 節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

今、教会ではいくつかの伝道行事を催しています。優しい絵と詩で親しまれている星野富弘さんのアート展、荻窪音楽祭ではパイプオルガンで「讚美歌名曲」を聴く、そして「聖徒の日」の在天者記念会ではチェロ演奏もあります。みなさんが過去に経験したことかもしれませんが、初めて教会に足を踏み入れることは大決心です。最初の一步が踏み出せない…そういう人々が大勢います。何年か前に、初めて教会を訪ねた人に「礼拝堂へどうぞ」と案内したら「入っていいんですか?」と言われたことがあります。それくらい教会の敷居は高いハードルなんですね。だから、この秋の催しでは、教会という建物にまず入っていただく、教会に親しみを持っていただければと思います。自分が入ってはいけない、自分が入るところではないと考えている人は私たちが想像している以上に多いのです。教会は神さまの御心で「すべての人の魂に配慮するところ=すべての人を招く場所」のはずですが、実際はそうになっていないのはとても残念です。

ところが、聖書は教会のことを「キリストの体」と言います。十字架がついた建物のことでなく、その頭はイエス・キリストで、その頭にしっかりとつながる体が教会だと。荻窪清水教会は60年前に小さなアパートの部屋に集まって礼拝を始めました。屋根に十字架がある教会堂ではなく、それは小さなアパートでした。でも、一人一人がイエスさまに招かれ、救い主に繋がれて、キリストの体という教会が始まったのです。立派な教会堂に憧れる人は多いかもしれませんが、やはり教会が本当に教会であるためには、一つ一つの魂が救い主イエスさまに出会って、結ばれることを喜んで、救い主イエスさまを礼拝することが不可欠なのです。



### 堀内長老からのメッセージ

10月から礼拝での聖書朗読が新しい「聖書協会共同訳」で朗読されています。今日本に残っている最も古い日本語の聖書は1837年に出された聖書です。江戸幕府が開国に動く十数年前ですが、この年にドイツ人の宣教師ギュツラフによってシンガポールで出されたのが「ギュツラフ訳聖書」です。そのギュツラフの作業を助けた日本人がいたのです。愛知県の知多半島（現在の美浜町）の船乗り、岩吉、久吉、音吉の3人です。3人は鳥羽から江戸に向かう船に乗っていましたが、太平洋をさまよい、アメリカの西海岸に着いて助けられました。その後中国のマカオでギュツラフに出会い、日本語聖書の仕事を助けたのでした。その聖書のヨハネ福音書の初めには「ハジマリニ カシコイモノゴザル。コノカシコイモノ ゴクラクトモノゴザル」とあります。聖書協会共同訳では「初めに言があった。言は神と共にあった」と訳しています。ギュツラフの聖書は満足なものでないということで日本では使われませんでした。後に日本語訳の聖書の中心となるヘボンはこのギュツラフの聖書を持って日本に来ました。3人の日本人が手伝った聖書は、その後の日本語の聖書の歴史につながっているのです。